

次世代環境対応新型ディーゼル機関を拡販

ダイハツディーゼル中日本株式会社

今回はダイハツグループのエンジン販売会社「ダイハツディーゼル中日本株式会社」を取材した。同社はダイハツディーゼル100%出資子会社で、本社＝広島市南区稲荷町4-1、☎082-262-2754、会長＝長谷川 邦之氏、社長＝油谷 孝一氏。ディーゼルエンジン、ガスエンジン、ガスタービン等を搭載した船用推進システムや陸用発電システムを販売している。また、システムの部品の販売や、周辺機器の保守メンテナンスなどの附帯サービスといった3事業を中心に手がけている。

平成23(2011)年度下期から同社は、附帯サービス事業を親会社に移管し、今後、エンジンシステムおよび部品の販売事業に特化していくこととしている。特に出力500kW超の船用ディーゼル市場において、高出力で低燃費を実現した同社の環境配慮型ディーゼルエンジン、いわゆる「環境対応新型ディーゼル機関」は多くの船主から支持を集め、納入実績を着実に伸ばしている。今回、新製品2タイプの環境対応新型ディーゼル機関を市場に投入して、シェア拡大に注力していくダイハツディーゼル中日本を紹介する。

創業の経緯

ダイハツディーゼル中日本の前身は、船用ディーゼルシステム販売会社「神戸ダイハツマリン株式会社」(本社＝神戸市中央区)である。同社は昭和47(1972)年12月1日、新日本工業株式会社(当時)と



長谷川 邦之 会長

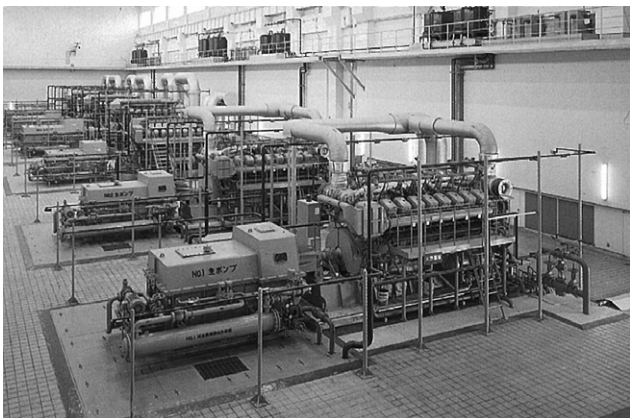


油谷 孝一 社長

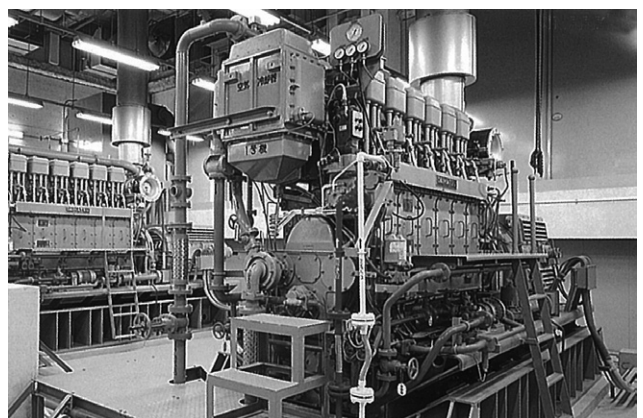
ダイハツグループが共同出資して設立された。この年は沖縄諸島が本土復帰を果たした年でもある。神戸ダイハツマリンは昭和54(1979)年6月1日付けで、社名を「中日本ダイハツディーゼル販売株式会社」に変更し、併せて、業務拡大に伴い、広島営業所を新設した。

一方、同社は昭和50(1980)年代後半から、従来の船用部門に加え、新たに陸用部門へと積極的に進出していった。その一環として昭和57(1982)年11月、機械器具設置工事業に関する「建設業者許可」を広島県知事より取得し、さらに広島エリア外でも積極的に受注するため、昭和59(1984)年9月、機械器具設置工事業に関する「建設大臣許可」を取得している。

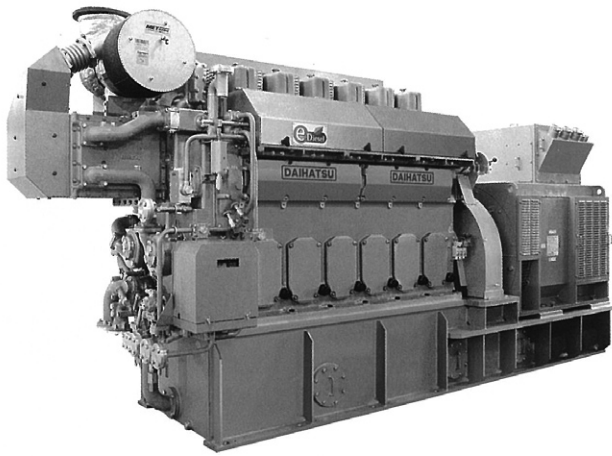
その後、中日本ダイハツディーゼル販売は平成11(1999)年4月1日付けで、社名を現行の「ダイハツディーゼル中日本株式会社」に変更した。併せて、



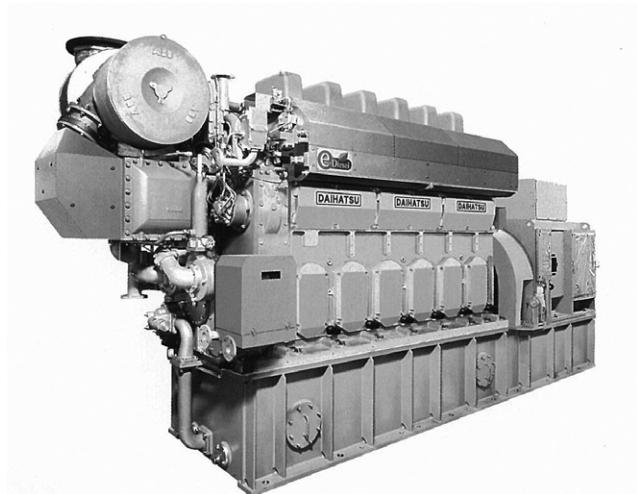
大阪府太間排水機場



関西国際空港



環境対応新型ディーゼル発電機関「6DE-18」



環境対応新型ディーゼル発電機関「6DE-23」

本社を神戸市中央区から大阪市淀川区に移転した。平成13(2001)年4月、ダイハツディーゼル中日本は、販売体制を強化するため、ダイハツディーゼル100%出資子会社となった。

平成22(2010)年1月、ダイハツディーゼル中日本は、本社を大阪市淀川区から大阪府茨木市に移転した。再び同年4月、本社を茨木市から広島市に移転するとともに、神戸支社を新設し、現在に至っている。現在、資本金1,000万円、従業員数32名。

3事業所体制

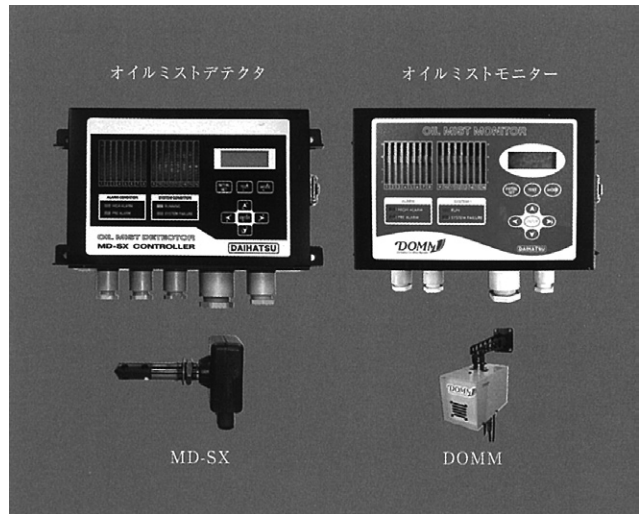
親会社であるダイハツディーゼルでは、営業エリアを4つに分け、それぞれに販売会社を設置した。具体的には「東日本」(50サイクルの全県)、「中日本」(近畿エリアおよび広島県、山口県、鳥取県、島根県)、「四国」(四国4県)、「西日本」(九州エリアおよび沖縄県)の4社である。そのうち、今回取材した「中日本」はダイハツディーゼル本社直轄の支社であり、「3事業所」体制の下、販売事業に邁進している。

広島市南区稲荷町にある「中日本」の広島本社では売上高の50%を船用エンジンシステムの販売事業が占めている。残りの50%は部品の販売事業、保守メンテナンスの付帯サービス事業が各25%となっている。

今後、広島本社は、船用補機関を中心とした営業活動をしていく。中国エリアでの陸用ディーゼルシステムの販売事業に注力していく。

また、神戸支社では船用および陸用エンジンの各種部品の販売事業を主に行っている。平成23(2011)年4月から神戸支社の体制を拡充しており、今後、神戸支社は、部品の販売事業に特化して、積極的に拡販していく。

一方、大阪府茨木市田中町にある大阪支社・茨木工場では陸用エンジンシステムを中心とした販売事



左からオイルミスト警報装置、オイルミストモニター

業、付帯サービス事業を展開してきたが、今後、両事業を神戸支社に移管する予定としている。

環境対応新型ディーゼル機関を拡販

直近の売上高をみると、以下の通り概ね増加基調で推移しており、中でも機関(船用ディーゼル補機関)の占めるシェアが高いことがわかる。

■平成21(2009)年度:売上高58億5,300万円。シェア:機関57.1%、部品27.1%、サービス他15.8%。

■平成22(2010)年度:売上高59億5,300万円。シェア:機関62.5%、部品25.4%、サービス他12.1%。

ダイハツディーゼル中日本では、船用エンジンの新たな主力商品として、次世代環境対応新型ディーゼル発電機関「6DE-18」(エンジン出力440~850kW)、「6DE-23」(同1,040~1,500kW)の2タイプを開発、市場に投入した。新商品はIMO(国際海事機関)が定めるNOxの二次規制、三次規制をクリアした地球環境に優しい、いわゆる「環境対応新型ディーゼル機関」として位置づけられており、今後、造船所や船主に対して積極的に売り込みを図っていく。